めざす児童生徒像の共通理解を深める校内研修の取組

平成 28 年３月

校内研修を進めていく上で、めざす児童生徒像を具体化し共通理解することは、とても重要です。そのめざす児童生徒像を意識して日々の授業を行うには、達成基準の設定と達成基準を反映した振り返りカードの作成が効果的です。その際、いずれもワークショップ型協議で行うことで、教員の協働性を高めることもできます。

【小学校で実践する場合】

Step 1 ：めざす児童の達成基準の設定

〔準備物〕付箋、サインペン（黒）、模造紙（シート）、フェルトペン（多色）、タイマー

〔グループ編成〕低、中、高学年の３グループ※専科、特別支援学級は関わりのあるグループに入る。

〔研修会の流れ〕（全８０分）

① 研修会の目標と流れの説明（５分）
参加者が見通しをもって協議できるよう、会場のホワイトボード等に示し、確認する。

② 付箋の記入（１０分）
授業で付けさせたい力が身に付いた児童の具体的な姿を、各自が付箋に記入する。

③ 付箋の発表（１０分）
グループ内で付箋を出し合い、シートの右側に貼る。内容が似ているものは近くに貼る。

④ 付箋の整理（２５分）
出し合った付箋を関連するもので整理し、レベル１～３の３段階に分ける。
・レベル３ ：２年間の終わりまでに、付けさせたい力が身に付いた姿
・レベル２ ：レベル１とレベル２の中間の姿
・レベル１ ：力が最低限身に付いている姿

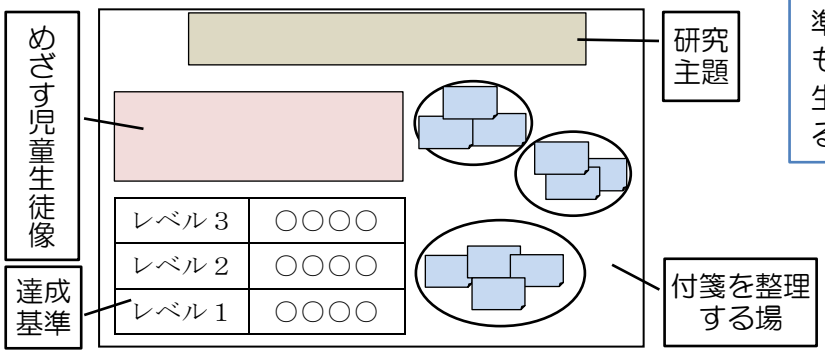
⑤ レベルごとの見出し付け（１５分）
付箋の内容を要約したり、最も大切なものを選んだりして見出しを付け、シートの左の表にまとめる。

⑥ グループ発表（３分×３グループ）

⑦ まとめ（５分）
次回、設定した達成基準を基に授業の振り返りカードを作成することを予告する。それまでに、基準が妥当かどうか、児童の姿に照らして再確認しておくことを伝える。

シートの例（高学年）

＜使用するシートの例＞



この例では、**３段階**で達成基準を設定しましたが、**５段階**でも可能です。学校の実態（児童生徒、教員）に合わせて選択するとよいでしょう。

Step 2：達成基準を基にした振り返りカードの作成

〔準備物〕付箋、サインペン（黒）、模造紙（シート）、フェルトペン（多色）、タイマー、
達成基準を設定した前回のシート

〔グループ編成〕低、中、高学年の３グループ（前回と同じメンバー）

〔研修会の流れ〕（全７０分）

① 研修会の目標と流れの説明（５分）

② 付箋の記入（１０分）
授業の最後に児童に振り返らせたい観点について、達成基準を基に付箋に記入する。

③ 付箋の発表（１０分）
グループ内で付箋を出し合い、シートの右側に貼る。内容が似ているものは近くに貼る。

④ 付箋の整理（１０分）
出し合った付箋を関連するもので整理し、見出しを付ける。

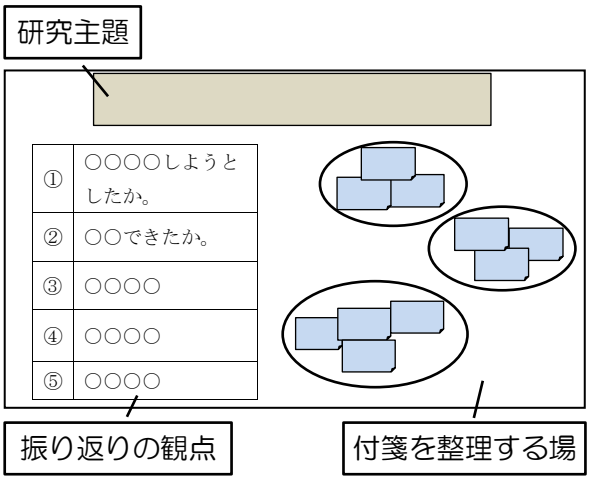
⑤ 振り返りの観点の決定（２０分）
付箋や見出しの内容から、５項目の振り返りの観点を決める。

⑥ グループ発表（３分×３グループ）

⑦ まとめ（５分）
今後、授業の中で振り返りカードを使用していくことを確認する。

最後に、今回の成果と今後の取組を確認することが大切です。

＜使用するシートの例＞



このように、授業で身に付けさせたい力を具体化し、振り返りカードのような日々の授業で生かせる形にすることが重要です。

実施上の留意点

〇中学校・高等学校では、学年ごとのグループにするとよい。

〇Step１では、時間内に達成基準の表が完成しない場合も考えられる。Step２までに、グループごとで協議する研修会を計画に入れておくとよい。

〇研修だよりで、事前に協議の目標や流れを知らせたり、事後に協議の結果をまとめて再度確認したりするとよい。

※本資料は、センターとの共同研究で実践した光市立三井小学校（平成26年度）の取組を基に作成しました。